

「SDGs 未来都市」 壱岐市の取り組み ～テレワークセンター関連施設のご紹介～

壱岐支部 松本隆之

壱岐市は2018年、「SDGs（エスディーゼーズ）未来都市」および「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。事業推進の柱として「SDGs未来課」を設置し、様々な事業に取り組んでいます。市民参加型の活動とする為に、「壱岐なみらい創りプロジェクト」を立ち上げ、「みらい創り対話会」を年4回開催しています。

「壱岐テレワークセンター（写真①）」は、対話会の“空き家を様々な人々が集まる場所にする”というアイデアから生まれました。企業の研修やサテライトオフィスとして、国特別史跡である「原の辻遺跡」内にある倉庫をリニューアルして作られました。

『大陸との交流拠点「王都 原の辻」を中心に人々が集まるまち創り』というテーマのもと、総務省のふるさとテレワーク推進事業に採択され、「フリーウィルスタジオ壱岐」として、主にテレワークセンターと短期滞在型宿泊施設から構成されています。今回は、この木造平屋建てのシェアハウスをご紹介します。



写真① フリーウィルスタジオの内観

シェアハウスはテレワークセンターから程近い、緑の自然豊かな敷地に建っています。木造平屋建ての低く抑えられた建物は、コンクリート打ち放し意匠の壁と鋼板縦ハゼ葺きのシンプルな外観で周辺環境になじんでいます。内部空間は、6畳の個室×8、小屋組みあらかわしの開放的な土間空間と水回りが共有スペースになります。



写真② シェアハウスの外観1



写真③ シェアハウスの外観2

市担当者の説明によると、広い土間空間と個室空間の両立を実現させるために、「堅穴式住居」の構造様式を導入しているそうです。また、木造架構では釘やボルト類の金物を使用せず、ほぞ組み込み栓の仕口で納めてあるとの事でした。



写真④ シェアハウスの内観

現地を訪ねてみると、利用者が土間の共用リビングで雑談する様子が見え、テレワークセンター利用者が仕事に集中し、壱岐の自然の中で余暇を過ごすという、リラックスして滞在できる環境が整えられていると感じました。予期せず、新型コロナウイルスの世界的蔓延が起こったことは、都市型生産活動と対極にあるこの壱岐市の取り組みを加速させるきっかけとなるのではないのでしょうか。



写真⑤ 木造仕口

建築データ：設計 福西健太建築設計事務所 2018年竣工 木造平屋建て 建築面積199.0㎡